

成人式祝辞

新成人の皆様、おめでとうございます。また、今日まで深い愛情を持ってお子さんを立派に育て上げられた保護者の皆様、ご家族の皆様にも重ねてお喜びを申し上げます。みなさんの表情は、とても晴れやかで眩しくもありますが、皆さんの現在の心境は、大人の仲間入りをすると行った気負いよりは、久々の故郷での旧友との再会に心躍っていると言ったところが本当かもしれない。しかしながら、折角の節目でありますので、皆さんが過ごした 20 年の軌跡を、これまで皆さんを支えてくれたご両親や大勢の方々との出会いに感謝しつつ、思い返して噛みしめていただければ幸いです。

そんな大切な晴れの日ではありますが、最初にどうしても触れさせていたいただきたいことがあります。おめでたい日にふさわしくないかもしれませんが、ご容赦ください。それは、平成 30 年 9 月 6 に発生した北海道胆振東部地震から 1 年と 4 か月が過ぎたということです。皆様方の親類や友人知人の中にも犠牲になられた方がいらっしゃるかもしれませんし、今もなお、仮設住宅などでご不便な生活をなされている方もいらっしゃるかもしれません。それでも、一昨年 12 月 15 日と昨年 9 月 7 の慰霊式や追悼式では、遺族代表者が揃って、「犠牲になった家族は厚真町民が悲しみの中で立ち止まっていることを望んではいない。」と私たちが立ち上がることを、厚真町の開拓の歴史を引き継いでいくことを望んでいると、励ましてくださいました。

悲しい出来事があった厚真町ですが、この間、多くの関係機関の皆さまのご尽力や全国各地からの物心両面にわたるご支援を賜り、また被災者自らの懸命なご努力により、日常生活を取り戻すべく、生業の復旧に向けて懸命に取り組んでまいりました。また、幌内地区のご理解とご協力により、特に甚大な被害を受けた北部山間地域は、景観や生産空間が安定化しつつあり、復旧作業が加速しています。本年中には、自力再建のかなわない方々向けの災害公営住宅や大型福祉施設の建設が完成する見通しとなりました。それでも、傷ついた心を癒すことや自慢の自然景観である森林の再生を果たし、厚真町の真の復興を成し遂げるには、まだまだ遠くて険しい道のりが続きます。ぜひ、若い皆さんのエネルギーを、どんな形でも結構ですので厚真町の未来の創造のためにお貸しいただきたいと願っています。

さて、皆さんは 1999 年から 2000 年生まれの 20 世紀末の生まれであり、2020 年までの 20 年間という 21 世紀の初頭に育ってきました。

皆さんの生まれる少し前の時代である 1995 年頃から、Windows95、Windows98、そしてインターネットが急速に私たちの社会に存在感を増し始めていたころに、皆さんは生まれ、i モードが登場し、現在のスマートホンの普及に繋がっていきます。これらのデバイスや技術は、劇的に私たちの生活や生産活動を変化させています。既に、これらの端末携行を前提として社会

構造が発展しており、5Gの技術を中心とした Society5.0 革命の実現も近いと予感しています。これら情報の高度化が私たちの生活を便利にしたことは認めざるを得ませんが、社会生活や心の安定を向上させたかについては疑問の残るところでもあります。人間としての成長や地域社会の安定のためには、これからも face to face のお付き合い、ぬくもりや支え合いの大切さを改めて認識する必要があると思います。ついては、これから登壇する議長が思いやりの大切さを皆さんにお話しすると思いますので、私からは、寛容についてお話をさせていただきたいと思います。

教育長の式辞にありましたように、20才ともなれば、これまで以上に皆さんに対する社会の期待が大きくなり、権利と自由はより大きなものとなり、その代わり責任や義務はより重くなります。自由や権利は、安全で健全な社会によって守られていますが、自由や権利が保障される安全で健全な社会には、寛容という精神が根付いていなければならないと考えています。

哲学者ボルテールは「君のいうことには反対であるが、君がそれをいう権利は死んでも守ろうと思う」と語り、これは寛容の精神をよく示した言葉として引用され、民主主義の基本原則の一つとなりました。現代的に申し上げれば、違いを個性と認めあい、民族や信教の違いを受容する努力が必要だと理解しています。身近なところでは、いじめやハラスメント、大義のない争いの根絶に繋がると考えています。勿論、寛容の精神は、万能ではありません。理性、良心、信念に基づく言説にのみ適用すべきであり、民主主義を破壊しようとする言動や暴力を見逃す無関心を装う理由としてはなりません。寛容と思いやりをもって成長して行く皆さんの未来が、争いのない21世紀であることを願って止みません。

ここで恒例ですが、成長途上の皆さんに二つの言葉を贈りたいと思います。一つ目は「あなたが転んでしまったことに関心はない。そこから立ち上がることに関心があるのだ。」、二つ目は「意志あるところに道は開ける。」です。何れも、アメリカ合衆国第16代大統領のリンカーンが演説で使った言葉と紹介されています。

厚真町は、これまでの間、多くの善意に支えられ、激甚な災害から今日まで相互理解の下、復旧に全力を尽くしてきました。しかしながら、今もって道半ばであることは、皆さんもご承知のことと思います。そして、そのゴールも悲嘆に暮れたままでの復旧であってはなりません。未曾有の困難から自ら立ち上がる厚真町民がどう乗り越え、どのように創造的復興を果たすのが、これからは重要です。その為にも、町民の中で、温度差や現状認識のずれがあってはなりませんし、老若男女が手を取り合って、大きな目標に向かって着実に歩を進めていく確固たる意志が必要です。

広い世界に飛び立とうとしている皆さんにとっても、これからは様々な困

難が待ち受けていると思いますが、ふるさと厚真町と同様に、自らを信じ、何事にも固い意志と困難に挑戦する行動力を遺憾なく発揮していただきたいと思ひます。皆さんがこれから歩む道は、決して平坦な道ではありません。ただ、理解し支えてくれる人が必ずいます。多くの出会いと一つひとつの努力の積み重ねが、いつか必ず大きな実を結ぶことになると思ひています。

結びに、厚真町を含む胆振東部3町が再び輝きを取り戻し、そのバトンを次世代の皆様方に受け継いでもらえるよう、私たちはこれからも全力で復旧・復興に取り組んでまいりますことをお約束します。前途洋々たる皆様とご家族の皆様には幸多かれとご祈念申し上げ、祝辞といたします。本日は、誠におめでとうございます。

令和2年1月12日

厚真町長 宮坂 尚市朗